

## 第2回摂食・嚥下セミナー応用編

### 舌圧検査を用いた口腔機能の評価と向上プログラムの実際



広島大学大学院医歯薬保健学研究院  
応用生命科学部門先端歯科補綴学

津賀 一弘

私たちは、日常臨床や介護現場における口腔機能の定量評価の普及を目指して、舌圧検査を開発しました。舌圧とは、口蓋前方部を検査部位として、舌で随意的に最大の力で風船を押しつぶす圧力を測定するもので、医療機器として市販されているJMS舌圧測定器®を用います。医療・介護の分野でも口腔機能の実情および各種介入の客観的評価に資する研究に活用されており、加齢に伴う舌圧の低下、舌圧の低下に伴う摂食機能の低下や食事形態の劣化、嚥下機能の低下、口腔機能向上プログラムの効果の有無との関係などのエビデンスが徐々に明らかになってきました。

摂食・嚥下障害の臨床では、食事形態の明らかな改善や誤嚥の安定的な解消にかかる時間は予測が困難ではないでしょうか。しかし、すぐに結果が見えなければ、不安になります。舌圧を用いれば、良い場合でも悪い場合でも、訓練を初めて割と早い段階から、その数値に変化が見て取れます。すなわち、検査を受ける側・受けさせる側の両者にその場で結果をフィードバックして口腔機能の重要性について理解を得ること、加えて口腔機能向上訓練への積極的参加に向けた動機づけにも役立てることができるのです。検査を提供する側の人も、より具体的な数値による結果の説明を行うことができることに充実感・満足感さらには機能向上に対する達成感が得られるでしょう。この舌圧の検査結果を基に舌圧を効果的に鍛える器具（ペコばんだ®）も市販され、試行錯誤から一步進んだシステムティックな口腔機能向上プログラムの実施が可能となってきています。

今後、歯科でも一般的に摂食・嚥下障害にアプローチし、さらには健康高齢者の増加と国民全体の健康増進のために、舌圧検査が役立つ可能性についてご紹介させていただきます。

#### 講師略歴

- 1985年 広島大学歯学部卒業
- 1989年 広島大学大学院歯学研究科修了、歯学博士
- 1989年 広島大学歯学部助手（歯科補綴学第一講座）
- 1991年 国家公務員等共済組合連合会広島記念病院広島合同庁舎診療所歯科医師
- 1994年 広島大学歯学部附属病院講師（第一補綴科）
- 1995年 文部省在外研究員（スウェーデン王国・イエテボリ大学）出張
- 2002年 広島大学大学院医歯薬学総合研究科助教授（顎口腔頸部医科学講座）
- 2003年 日本補綴歯科学会指導医
- 2014年 2月より現職

香川県歯科医師会 FAX：（087）822-4948 宛

第2回摂食・嚥下セミナー応用編参加申込書（11/19開催）

貴団体名：

\_\_\_\_\_

※必ず受講場所を選んでください。

氏名 ふりがな	職種・所属	メイン会場	サテライト会場	
		高松	中讃	小豆

申込締切：11月10日（火）